

チュチェ思想の生活力

ドルスレン・ナンジン

モンゴル・ジュソン協会書記長

国家戦略において、政策立案者や戦略家は、もはや他者の「見解」を考慮するだけでなく、自国の思想の見解も考慮しなければならない。特に、発展途上国においては、その思想的基盤が長期的には国の独立と発展を促進するものとなる可能性がある。

このような観点から、自己発展政策と姿勢の役割は、モンゴルをはじめとする発展途上国の重要な問題である。そのため、たとえばモンゴルでチュチェ思想の研究に携わっている多くの学者たちは、「自主」の思想的概念についてもっと理解したい、学びたいと思っている。

私の観察によれば、自主の思想発展概念には次のような大きな傾向がある。

第一に、「存在と自主の思想的発展」というキーワードは、発展途上国にとって国家発展の重要な要因となり得る。それはチュチェ思想という民族自尊の強い精神と関連しているだろう。朝鮮人民は、金正日総書記が打ち出した思想と路線が人民大衆の自主のための指導原理であるという認識を持っている。

第二に、世界の多くの国とは異なり、朝鮮民主主義人民共和国は政治的・思想的な強さに基づいて計画的に発展している。朝鮮は、チュチェ思想のために困難に遭遇することはない。チュチェ思想は徹底した自主の思想である。自主性とは本質的に、人、国、民族が何ものにも従属しないという本質的要求を反映している。

第三に、経済的潜在力があるにもかかわらず、各国間の協力関係を強化することは、現在の地域の国際関係の「複雑さ」に関係している。現在、この地域のすべての国が、コロナ禍などの困難や課題に直面している。だからこそ、各国は不屈の精神力を持ち、自らの努力で偉大で繁栄した強大な発展を築くべきなのだ。